



2011年7月14日



【本件に関するお問い合わせ先】
 社団法人日本アメリカンフットボール協会
 〒140-0001 東京都品川区北品川1-16-1
 舟正ビル2F
 TEL.03-3450-9360 FAX.03-3450-9361
 E-mail: press@americanfootball.jp
 Web: http://americanfootball.jp

報道各位

第4回世界選手権 オーストリア大会 カナダ接戦を制し優勝決定戦へ

第4回 世界選手権グループBは7月13日(水) グラーツのUPCアリーナでグループリーグ最終戦を迎えた。共に全勝(2勝)で臨む日本とカナダの戦いは4度の逆転を生む緊迫した展開となつたが、カナダが31対27で接戦を制した。カナダは開幕から3連勝、敗れた日本は2勝1敗となつた。この試合の詳細は2ページ目をご覧ください。

この結果カナダはグループB・1位が確定し、7月16日(土)に行われる優勝決定戦に駒を進める事となつた。対戦相手となるのは、昨12日(火)メキシコを破りグループA・1位となったアメリカ、初の顔合わせとなる。敗れた日本はグループB・2位が確定。7月15日(金)に行われる3位決定戦でグループA・2位メキシコと対戦する。

引き続き行われた第2試合では共に未勝利のフランスと地元オーストラリアが対戦。フランスが24対16でオーストリアに逆転勝利した。この結果フランスの3位、オーストリアの4位が確定しグループBのリーグ戦全日程が終了した。フランスは7月16日(土)の5位決定戦でドイツ、オーストリアは7月15日(金)の7位決定戦でオーストラリアとそれぞれ対戦する。順位決定戦はウィーンのエルнст・ハッペル・スタジアムに会場が移される。

■試合結果

【グループB】

7月13日(水) @グラーツ 15:00~

Team	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
日本	7	7	6	7	27
カナダ	7	10	0	14	31

19:00~

オーストリア	0	3	0	13	16
フランス	0	0	17	7	24

■グループB 最終順位

1位 カナダ		○ 31-27	○ 45-10	○ 36-14
2位 日本	×		○ 35-10	○ 24-6
3位 フランス	×	×		○ 24-16
4位 オーストリア	×	×	×	

激しい TD 爭奪戦も四転の末に及ばず 4 大会連続の決勝進出ならず

SWC 初参戦のカナダに善戦及ばず 27 対 31 と苦杯をなめる結果となり、日本代表はメキシコとの 3 位決定戦に臨むこととなった。試合は 7 月 15 日(金)、ウィーンにあるオーストリア最大のエンストハッペル・シュタディオン(53000 名収容)に舞台を移して行われる。

カナダはアメリカンフットボールの本場米国に次いで世界第 2 位の競技人口を誇るフットボール大国(競技人口、関係者総数約 40 万人)。プロフットリーグ CFL(カナディアンフットボール)所属経験者を始め、有力カレッジ選手(CIS=カナディアン・インターユニバーシティ・スポーツ)らによって構成された強豪だった

試合は前半終了時点で 14 対 17 と緊迫。カナダが先制し、日本がすぐさま追いつく展開となった。前半終了まで 32 秒を残して QB 高田(パナソニック)が左スウェイプ・アップを走った RB 古谷に 15 ヤードの TD パスをヒットして同点に追いついたが、カナダ攻撃が残り 1 秒に 32 ヤード FG を決める強かさは印象的だった

後半開始早々には日本代表が 14 プレー 6 分 31 秒を費やすロングドライブから同点 23 ヤード FG を K 青木(鹿島)が決め、直後のカナダ攻撃を CB 加藤(鹿島)がインターセプトで攻撃権を奪取。これを逆転 29 ヤード FG に繋げたが、ゲームはここから逆転に次ぐ逆転。カナダが 8 プレー 73 ヤード、3 分 28 秒の TD ドライブをあげると、日本も 6 プレー 89 ヤード、2 分 32 秒の TD ドライブで応戦。27 対 24 とゲームは三転した。

残り 5 分。時間とフィールド・ポジションの奪い合い

【試合記録】

■2011 年 7 月 13 日(水)UPC アリーナ ■観衆 2500 名 ■15:00 開始 17:32 終了

■天候=快晴 31 度 ■主審=ハンス・ヘニング(独連盟)

カナダ	7	10	0	14=31
日本	7	7	6	7=27

【得点経過】

1Q	05:38	カナダ	TD	フォールズーポントブライアント 2 ヤードパス(ハユラルキック)	7—0
	02:14	日本	TD	丸田 1 ヤードラン(青木キック)	7—7
2Q	01:29	カナダ	TD	スティーブンス 4 ヤードラン(ハユラルキック)	7—14
	00:32	日本	TD	高田—古谷 15 ヤードパス(青木キック)	14—14
	00:01	カナダ	FG	ハユラル 32 ヤード	17—14
3Q	05:29	日本	FG	青木 23 ヤード	17—17
	01:30	日本	FG	青木 29 ヤード	17—20
4Q	10:02	カナダ	TD	ウォルターズ 3 ヤードラン	24—20
	05:38	日本	TD	末吉 2 ヤードラン(青木キック)	24—27
	03:31	カナダ	TD	ウォルターズ 1 ヤードラン(ハユラルキック)	31—27

が明暗を分けると思われた瞬間に、カナダにビッグプレーが飛び出した。日本代表守備のプレッシャーを右ロールで交わした QB フォールズが、ノーマークとなっていた RB スティーブンスへのパスをヒット。これが 72 ヤードのビッグプレーとなってゴール前 1 ヤードへ侵入。パワー I 体型から力づくりのプレーに出たカナダ攻撃に、日本代表守備も第 1 ダウン、第 2 ダウンを阻止したが、第 3 ダウンに RB ウォルターズの TD ランを許してしまった。

日本代表にとって残り時間 3 分 31 秒は再度の逆転には十分な時間だったが、ここでもカナダ K ハユラルのキックにビッグプレーを許したのが痛かった。エンドゾーン手前のコーナーに蹴り込まれたボールにカバーチームが群がり、自陣 5 ヤードからの攻撃を強いられた。

昨年まで CFL モントリオールのスター DL として活躍したベリを中心としたパスラッシュにも日本代表 OL はよく対抗し続けたが、苦しいフィールド・ポジションを抜け出す決定力を発揮できず自陣 16 ヤード地点まで進んだ後の第 4 ダウン・ギャンブルを失敗。万事休した。

ダウン更新数で 17 回対 17 回。攻撃総獲得距離でもカナダの 56 回 328 ヤードに対し日本は 58 回 349 ヤードと僅かながら上回った。しかし、パス中心の攻撃からラン主体の攻撃にシフトしたカナダ攻撃(ラン 34 回 131 ヤード、パス 21 回投 14 成功 197 ヤード)や、キックリターンで日本の切り札リターナー木下(オービック)に一度もリターンの機会を与えないなど、堅実なゲーム・プランにも強かさが隠されていた。

【チーム記録】

	カナダ	日本
得点	31	27
第1ダウン	17	17
ラッシュ	34—131	23—125
パッシング	197	224
回数-成功-INT	21-14-1	34-20-1
総攻撃獲得距離	56-323	58-349
ファンブル-リターンヤード	0-0	0-0
パントリターン	1-0	0-0
キックオフリターン	5-152	6-128
インターミッション	1-1	1-6
パント回数-平均	3-44.0	2-49.0
ファンブル-ロスト	3-0	1-0
反則-罰退距離	3-22	3-20
ボール所要時間	24分30秒	23分30秒
第3ダウン効率	9回中3回	11回中4回
第4ダウン効率	2回中1回	3回中1回
レッドゾーンスコア効率	4回中5回	5回中5回

フランス代表スターティングメンバー

[攻撃]

QB	3	マイケル・フォールズ
RB	39	マイケル・ポントブライアント
RB/TE	35	デイビッド・スティーブンス
WR	86	スコット・ヴァルバーグ
WR	84	シャマード・チャンバース
TE/WR	80	ジャミーク・マーリー
OL	65	ジョシュ・ブットリル
OL	61	マット・ノーマン
OL	62	ダン・ベッダーマン
OL	68	リード・アレグザンダー
OL	66	ザック・ポラーリ
K	5	リリン・ハユラル

[守備]

DL	93	ブライアン・ギューバート
DL	95	ジェイク・トーマス
DL	96	ジョシュ・シモンズ
DL/LB	99	マイケル・ジョン・ルイス
LB	55	ペーター・キャリエール
LB	50	スティーブ・フォーロ
LB/DB	51	アレックス・デバルート
DB	20	サミー・オクプロ
DB	28	マキシメ・ビルベ
DB	49	ジュリアン・ハメル
DB	21	トロイ・アダムス
P	5	リリン・ハユラル

日本代表スタートメンバー

[攻撃]

QB	8	高田 鉄男	パナソニックインパルス
RB	29	丸田 泰裕	鹿島ディアーズ
WR	1	木下 典明	オービックシーガルズ

WR	11	前田 直輝	鹿島ディアーズ
WR	17	小川 道洋	IBM ビッグブルー
TE	87	大矢 祐嗣	富士通フロンティアーズ
OL	67	村井 雄太	鹿島ディアーズ
OL	72	村上 崇就	IBM ビッグブルー
OL	73	谷口 祐二	パナソニックインパルス
OL	75	宮本 士	オービックシーガルズ
OL	77	平本 晴久	元アサヒ飲料チャレンジャーズ
K	29	青木 大介	鹿島ディアーズ

[守備]

DL	13	山中 正喜	パナソニックインパルス
DL	43	脇坂 康生	パナソニックインパルス
DL	92	西川 岳志	鹿島ディアーズ
DL	93	紀平 充則	オービックシーガルズ
LB	2	古庄 直樹	オービックシーガルズ
LB	10	東 健太郎	パナソニックインパルス
LB	45	鈴木 将一郎	富士通フロンティアーズ
DB	14	藤本 将司	オービックシーガルズ
DB	21	加藤 公基	鹿島ディアーズ
DB	22	今西 良平	パナソニックインパルス
DB	24	佐野 忠也	鹿島ディアーズ
P	2	青木 大介	鹿島ディアーズ

【記者会見コメント】

◎森清之日本代表ヘッドコーチ

—残念ながら4回連続の決勝進出を逃したが、カナダと対戦した印象は？

「悔しい。選手らの取り組みは誇りに思うし、コーチを含めたスタッフは全力を尽くしたと思う。敗戦はヘッドコーチの私に責任がある。カナダは二日前のオーストリア戦で数多くの反則を犯していた(20回)のに、今日はプレーに集中し続けていて、見違えるような好チームだった。フィジカル面でも我々を少しつぶ回っていたと思う」

—3位決定戦のメキシコ戦に向けた抱負は？

「勝利するために、気持を切りかえて臨みたい」

◎日本代表ゲーム MVP RB 丸田泰裕(鹿島ディアーズ)

—カナダに対する印象は？

「森ヘッドコーチの指摘通り、我々よりフィジカル面で上回っていたと思う。自分自身は力を発揮できたと思うが、それだけに悔しい」

◎ラリー・ヘイラ— カナダ代表ヘッドコーチ

—優勝決定戦進出を決めた気持は？

「素晴らしいゲームで、とてもエキサイティングだった。日本のフットボールには心から敬意を表したい。フィルム分析をすると、コーチ陣の準備の素晴らしさが伝わってきたし、選手らが最後までハードにプレーする姿勢は印象的だった。素晴らしい対戦相手とゲームできたことを喜びたい」

—米国代表に対する抱負は？

「米国はフットボールの『首都』を自負するチーム。この瞬間を待ち望んでいた」

◎カナダ代表 MVP RB デイビッド・スティーブンス

—日本代表守備に対する印象は？

「すごくタフな印象だ。ネバー・ギブ・アップの精神をプレーを通じて感じ取ったが、我々もフィジカルに取り組むことができたと思う」

—米国戦に向けては、どう立ち向かうか？

「待ち望んでいた対戦だ。米国はフットボールのグレイト・ネイション。フィジカルに戦い抜きたい」

■ 第4回アメリカンフットボール世界選手権オーストリア大会 2011 大会概要

名称 第4回アメリカンフットボール世界選手権オーストリア大会 2011
The Fourth World Championship of American Football, Austria 2011
(略号:SWC2011=Senior World Championship 2011)

主催 IFAF [International Federation of American Football (国際アメリカンフットボール連盟)]
American Football Bund Oesterreich (オーストリア・アメリカンフットボール連盟)

期間 2011年7月8日(金)~7月16日(土)

出場国 8カ国が下記2グループに分かれてのリーグ戦を経て、同順位同士による順位決定戦を戦います。

【グループA】	【グループB】
アメリカ合衆国(前回優勝)	オーストリア(欧州選手権3位・開催国)
ドイツ(欧州選手権優勝)	フランス(欧州選手権準優勝)
オーストラリア(オセアニア代表)	日本(アジア代表)
メキシコ(アメリカ大陸代表)	カナダ(アメリカ大陸代表)

試合スケジュール

7月 8日(金)	① アメリカ×オーストラリア	② ドイツ×メキシコ	@インスブルック
7月 9日(土)	① オーストリア×日本	② フランス×カナダ	@グラーツ
7月 10日(日)	① メキシコ×オーストラリア	② ドイツ×アメリカ	@インスブルック
7月 11日(月)	① 日本×フランス	② カナダ×オーストリア	@グラーツ
7月 12日(火)	① オーストラリア×ドイツ	② アメリカ×メキシコ	@インスブルック
7月 13日(水)	① カナダ×日本	② オーストリア×フランス	@グラーツ
7月 15日(金)	① 7位決定戦	② 3位決定戦	@ウィーン
7月 16日(土)	① 5位決定戦	② 優勝決定戦	@ウィーン

* 試合開始時刻 第1試合:15時開始 第2試合:19時開始(現地時間)

* 試合会場
インスブルック Tivoli Stadion(収容人数 16,000人)
グラーツ UPC Arena(収容人数 15,400人)
ウィーン Ernst Happel Stadion(収容人数 50,800人)

WC2011公式サイト <http://www.americanfootball2011.com/en/>

【これまでの「アメリカンフットボール世界選手権」について】

第1回大会は、1999年イタリア・パレルモにおいて開催。その後、第2回大会が2003年ドイツ・フランクフルト、第3回大会が2007年日本・川崎市にて開催された。日本は第1回、第2回にて連続優勝し、第3回では準優勝。なお、第3回よりこの競技の母国であるアメリカが出場し、優勝を飾った。

詳細は大会公式ホームページ(日本語) [過去の大会]をご参照ください。

【IFAFについて】



国際アメリカンフットボール連盟

IFAF(International Federation of American Football=Tommy Wiking 理事長)は、1998年に創立、翌99年イタリアのシシリー島パレルモ市に6カ国が集って第1回世界選手権大会が開催され、過去3大会を通じて世界各地で加盟国の輪を広げてきた。

設立当初25カ国だったIFAFは、現在PAFAF(環太平洋連盟16カ国)、EFAF(欧州連盟32)、AFAF(アジア連盟5)、OFAF(オセアニア連盟3)の4地区が加盟し、今春これに加えてナイジェリアを起点とした待望のアフリカ大陸連盟が創立、59カ国の参加する組織としてその規模を拡大している。

IFAF公式サイト:<http://www.ifaf.info/>